

花王のアプローチ

花王は、豊かな生活文化の実現と社会のサステナビリティにつながるよう、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに、「環境」「教育」「コミュニティ」の3つを重点分野として、社会貢献活動を推進しています。

事業で直接アプローチできない課題については、地域社会や

NGO/NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。

また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため「社員参加型の活動」や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のための「メセナ支援」、公益財団法人 花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は、“よきモノづくり”を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、SDGsを踏まえ、貧困や教育など地球規模の社会的課題や、事業でアプローチできない課題に向けた活動を通じ、誰もが豊かで快適な生活を実現できるよう、よき企業市民として広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かし、特に、衛生・清潔を中心とした子どもたちの正しい生活習慣の定着、科学技術を担う人財の育成などの教育支援を行なっています。

また、多様なコミュニティとともによりよい社会を築くことをめざし、各地域のコミュニティが抱える社会的課題の解決や社会の活性化への貢献に関わる支援を行なっています。

さらに、メセナや財団の活動を通じてモノづくりの基盤を支える文化の発展を支援します。

これらの活動を通じて、社会や事業へのさらなる貢献をめざします。

貢献するSDGs



方針

社会貢献活動方針

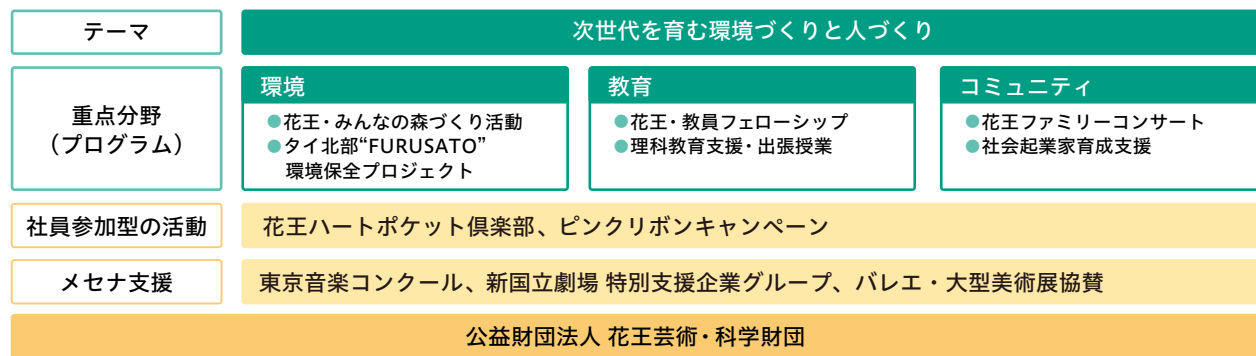
- 次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
- 地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行ないます。
- 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
- 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
- 花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
- 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。



→詳細は「社会貢献活動の考え方」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/approach/>

社会貢献活動 103-1,103-2,404-2

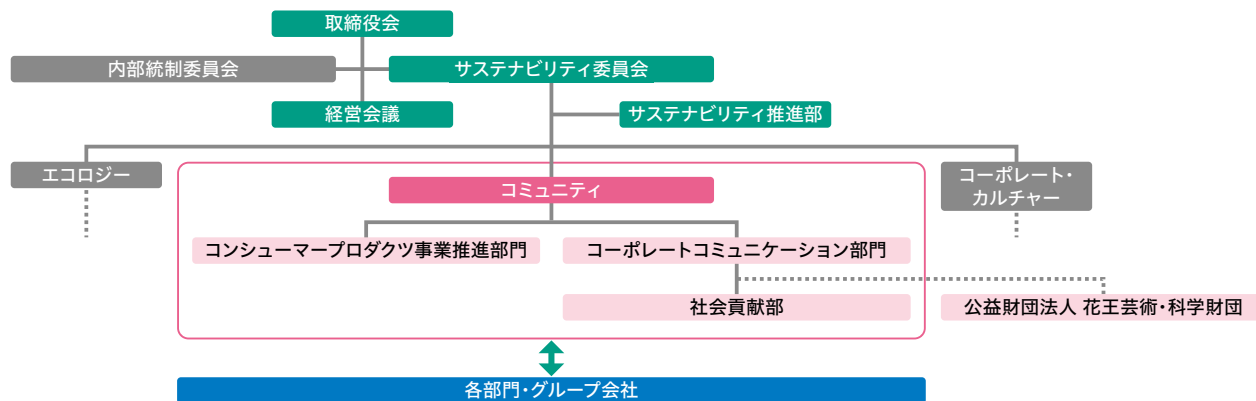
社会貢献活動の全体像



体制

サステナビリティ ステートメントの重点領域「コミュニティ」に向けた取り組みを中心に、コンシューマープロダクツ事業推進部門や、コーポレートコミュニケーション部門、社会貢献部が中心となり、関連部門、国内外のグループ各社と連携して、取り組みを進めています。

社会貢献活動推進体制



花王のアプローチ

具体的な取り組み

教育と浸透

花王では、広く社内外に情報発信を行なうことで、活動への理解を深めてもらうことに努めています。

社内向けには、イントラネットや社員研修の場を通じて事例を共有し、社員が参加できる活動機会を設けています。

社外向けには、活動を紹介する小冊子やウェブサイトを通じて、活動概要や実施したイベントの紹介を行っています。

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

中長期目標と実績

中長期目標

事業活動ではアプローチできない人々やテーマでの社会的活動を通じて、グローバル各地域のコミュニティの発展をめざします。グローバル各地域の社員がボランティアとして企業市民活動に参加することで、社会との接点をつくり、社員自身が成長し学びを業務に生かすことをめざします。

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着:

ベトナム学校衛生プロジェクト:2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

2. 科学技術を担う人財の育成:JSEC:毎年3校最大9名の高校生を支援

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援:社会起業家育成支援:毎年3団体を支援

4. 社会的活動への社員参加の推進

2017年の実績

社会貢献プログラムの実施

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着

- ①ベトナム学校衛生プロジェクト(ユニセフと連携)
 - ・アンザン省の小学校18校約5,000人に対してトイレや衛生設備の改善を完了
 - ・約170名のボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成

②手洗い啓発

- 日本
 - ・手洗い講座:36都道府県の99校、約7,040人の児童・生徒を対象に啓発
(出張授業全体では、37都道府県145校、10,834人、2009年の活動開始から累計約103,000人が受講)

- ・社員のべ572人が参加
- ・教材提供2,155件(全体で3,188件)
- ・教育関係者への研修会5回

- 台湾、インドネシア、タイ
 - ・65,909人の児童に手洗い啓発実施

③初経教育

- ・日本で約763,200人、日本以外で約530,300人の女子小中学生に初経セット配布

2. 科学技術を担う人財の育成

- ①科学技術に関する自由研究コンテスト(JSEC)への協賛
 - ・JSEC2017受賞校を招きスタディツアーを開催(3月)
 - ・JSEC2018に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校7名の高校生に贈呈(12月)

②東京理科大学と産学連携の協力協定を締結

- ③日本科学未来館と連携し、研究員による対話イベント「サイエンティストクエスト」を実施(2回)

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

- ①事業場地域でのファミリーコンサート(日本)
 - ・山形県酒田市、栃木県益子町、和歌山県和歌山市、愛媛県西条市で実施
- ②社会起業家育成支援(日本)
 - ・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供
 - ・2016年支援団体の成果報告と2017年支援団体のキックオフを目的とした花王社員との意見交換会を実施
- ③災害支援・復興支援活動(グローバル)
 - ・九州北部大雨災害被害に対して緊急物資支援と義援金の寄付(福岡県朝倉市、大分県日田市、中央共同募金会)
 - ・アメリカハリケーン「ハービー」に対して、被災地支援として寄付金(アメリカ赤十字社)
 - ・熊本県仮設住宅、みなし仮設住宅入居者への製品寄贈

4. 社会的活動への社員参加の推進

- ①花王ハートポケット倶楽部(日本)
 - ・定期的な運営委員会、臨時運営委員会で支援内容を決定
 - ・事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施
 - ・大規模支援「みらいポケット基金」を通じた助成実施
- ②ピンクリボンキャンペーン(グローバル)
 - ・10月～11月に、計9カ国・地域の化粧品カウンセリングコーナー等で美容部員など社員が啓発活動を実施
 - ・特設ウェブサイト開設による情報提供
 - ・製品購入数に応じた寄付
 - ・啓発イベントへの協賛:ピンクリボンウオーク(東京)、ピンクリボンプラザ(大阪)
 - ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
 - ・社員参加型の寄付プログラム:フォト募金

社内外に向けた情報発信

社内

- ・イントラネットなどで活動概要や社員参加型イベントの情報提供(50件)
- ・新入社員導入研修で社会貢献活動について説明し、社員285人が参加
- ・社員参加型のボランティア企画:東日本大震災の被災地ボランティア、活動報告会、花王グループ社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、地域事業場での地域貢献活動など

社外

- ・ウェブサイトやFacebookで60件の情報を発信



→詳細は「社会貢献活動報告書」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/social-reports/>
 →サステナビリティサイト>社会貢献の取り組み
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/>

ステークホルダーとの協働

花王の社会貢献活動は、NGO/NPOをはじめ、多くのステークホルダーと協働で実施しています。主な社会貢献プログラムの運営パートナーとは、定期的な

情報交換の機会を持ち、プログラムの進捗確認や運営の改善につなげています。

一方、活動を支援しているNPOなどの団体からも、定期的に活動報告をいただき、活動の背景にある社会的課題と、実施された活動による社会的インパクトへの

理解を深め、花王がめざす豊かな生活文化の実現への寄与をさらに進める一助にしています。定期的に情報交換を行ない現場の声を聴くことは、現場のニーズや社会の動きに沿ったプログラムへとブラッシュアップされることにもつながっています。

具体的な取り組み

清潔習慣の向上をめざすベトナム学校衛生プロジェクト

花王は、中期事業戦略としてアジアでの事業拡大を図っています。

事業展開国の一つであるベトナムは経済格差が大きく、事業ではアプローチできない人々が多く存在します。特に山間部や農村部、少数民族が多い地域では、衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。それらの人々の生活向上の支援として、2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

2017年の実績

2016年のアンザン省3地区の6自治体の住民と10校約3,000人に実施した衛生教育に続いて、2017年は18校でトイレや衛生設備のリノベーションを完了し、安心してトイレに行ける学習環境に貢献しました。また、約170名の教員、ボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成しました。

衛生への意識は、学校で学んだ子どもたちから各家庭やコミュニティに広がり、トイレのない家庭が自宅に新たにトイレを設置するきっかけにもなっています。これらの活動は、アンザン省の140村以上の屋外排泄撲滅宣言を後押ししています。

今後の取り組み

2018年は、持続的な衛生促進活動の運営管理に向けた教職員への研修や、新たな22校への支援を計画しています。



児童たちと正しい手洗い方法を確認



イラストを使って正しい手洗い方法をゲームで楽しく学習

ベトナムユニセフからのメッセージ



Nguyen Thanh Hien

Water and Sanitation, Hygiene Specialist
United Nations Children's Fund
Viet Nam Country Office

この10年、ベトナムは毎年平均して6%近くのみぞましい経済成長を遂げました。経済の変化は、子どもや女性の生活状況に大幅な改善をもたらしましたが、2千6百万人の子どもすべてが、この新たな「富」を享受しているわけではありません。富める者と貧しい者、ジェンダー、多数民族であるキン族と多くの少数民族の間にある格差は歴然としています。

こうした不平等は「水と衛生」の分野に顕著にあらわれており、最も貧しい人々は著しい発展に見合ったサービスを受けていません。多くの人々が依然として屋外で用を足すか、あるいは非衛生的なトイレを使用している状況です。人々はまた、排泄物などから保護されていない水源を利用し、水質基準に満たない水を消費しています。2014年に実施された影響評価では、適切なタイミングで石けんを使った手洗いを実施する人の割合はわずか13%で、貧困世帯や少数民族では、さらに低い数値でした。

80%以上の学校が水と衛生設備を備える一方で、設備が衛生的に機能し、使用できる状態かどうかの問題が残っています。特に支援が届きにくい遠隔地農村部の学校設備が機能していません。そのため、子どもの手洗い習慣や衛生行動を促進する妨げとなるほか、女の子のプライバシーの面で課題となっています。

そこでユニセフはベトナム中央政府とともに、国全体の学校における水と衛生改善、および地域から屋外排泄をなくす政府の取り組みを強化する活動を展開しています。

花王からのサポートを受け、2016年以降、メコン川流域のアンザン省が重点を置く「学校での水と衛生環境の改善およびコミュニティでの衛生促進」を支援しています。

過去2年間で、それまで衛生状態が良くなかった18校の水と衛生設備が改良されたほか、40校170名の教員に対して設備の使用維持と衛生促進活動に関する研修を実施しました。

現在、研修を受けた先生の指導のもと、子どもたちは適切なトイレの使用や石けんを使った手洗いを学んでいます。また、指導を受けた児童による衛生促進チームは、モニタリングおよび水と衛生設備の適切な使用、石けんを使った手洗い、安全な水を飲むよう他の児童を手助けしています。

このプロジェクトは、子どもたちが学校で健康的な習慣を身につけることを目的としています。習慣は家庭に、そしてコミュニティに広がります。

花王からの資金は、アンザン省の地域コミュニティにおいて屋外排泄を根絶する活動も後押ししています。2017年末時点で22万人の住民が住む省内140の村が、ベトナム保健省の基準に基づき屋外排泄根絶を達成した村に認証されました。

アンザン省行政は、花王の学校とコミュニティの両輪での衛生状況改善への支援を高く評価しています。

これらアンザン省の学校を通じた衛生教育と屋外排泄を根絶した村々の事例は、事業モデルとしてユニセフの他の活動重点省にも広がっています。

プロジェクトは2018年、住民の大多数が少数民族で構成されるベトナム北部の山岳地帯、ディエンビエン省へと拡大します。同省では、人口の7割以上が衛生的な設備にアクセスできていないと推定されています。2016年から2020年の5年間で60校3万5千人の子どもたちを支援する計画です。

多大な貢献をお寄せいただく花王に、心から感謝の意を表します。

高校生の理科教育支援としてJSECに協賛

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術からうまれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ(JSEC)」(主催:朝日新聞社、テレビ朝日)に協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しています。賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文を読み、実際に高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

JSECの上位入賞者は、米国で行なわれるインテル国際学生科学技術フェア(Intel ISEF)への出場資格が与えられます。

また、受賞校を花王に招き、施設見学と、研究員との交流を図るスタディツアーを開催して高校生のキャリア教育支援にもつなげています。

2017年の実績

JSEC2017:花王賞および花王特別奨励賞を贈呈

- ・花王賞:
“副実像”の写像公式化の研究～定式化のための行列の特定と可視化～
成松紀佳さん、小佐井彩花さん、高田晶帆さん
(熊本県立宇土高等学校)
- ・花王特別奨励賞:
「巨大単細胞生物オオバロニアの生存するための工夫」
岡部菜々子さん
(横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)
「不思議な集団生活をいとむカスミカメムシから謎の器官を発見～長崎市RDB希少種ソデフリカスミカメをめぐる生態学と形態学的新知見～」
池田菜々子さん、本村佳凜さん、田川晶悠さん
(長崎県立長崎西高等学校)

Intel ISEF2017:優秀賞、特別賞を受賞

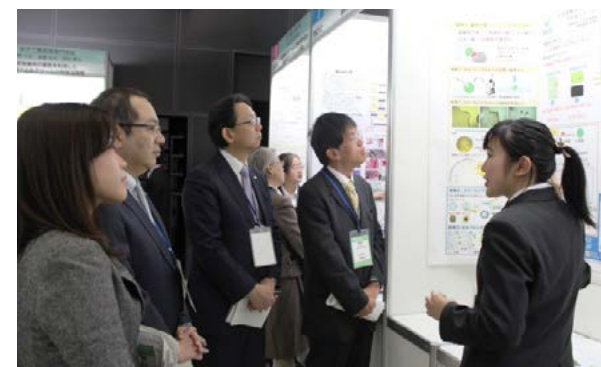
JSEC2016の花王賞、花王特別奨励賞受賞者の皆さんがIntel ISEF2017の日本代表に選ばれ、南山学園南山高等学校男子部の田淵宏太郎さんが優秀賞の機械工学部門で2等受賞、長崎県立長崎西高等学校の野辺愛耶さん、近藤紀香さん、福澤咲知子さんが特別賞のアメリカ音響学会賞佳作を受賞しました。(2017年5月)

スタディツアーを開催

JSEC2016の花王賞を受賞した南山学園南山高等学校男子部、花王特別奨励賞を受賞した長崎県立長崎西高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校を招いてスタディツアーを開催。研究者との交流を深めました。(2017年3月)

今後の取り組み

今後は、JSEC2017受賞校を招いたスタディツアーの開催、およびJSEC2018への特別協賛を予定しています。



最終審査で高校生の熱のこもったプレゼンテーションを聞く花王研究員

女子小中学生に向けた初経教育の支援活動を拡大

花王は、1978年の生理用品の発売以来、30年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

1. グローバルでの初経教育セットの配布活動

初経教育セットは、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れたもので、無償配布しています。

アジア各国・地域でも、現地の小中学校、NGOと連携してさまざまな初経教育プログラムを実施しています。

2017年、日本では公益財団法人日本学校保健会との連携を開始し、初経教育の教材・生理用品の学習用として初経教育セットを活用していただけるよう、全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。その結果、配布数は2016年より大幅に増加しましたが、告知方法や期間が限定されていたことから、目標の6割程度に留まりました。

2018年度は告知回数を増やし、FAXでも応募できるようにするなどして、2万校への配布をめざします。

2. 日本での情報サイトの運営

日本では、2003年から情報サイト「からだのノート おとなになるということ」を運営し、思春期の体や月経についてわかりやすく解説し、医師や専門家による豊富な情報も発信しています。



ロリエ初経教育セット



ウェブサイト「花王ロリエからだのノート おとなになるということ」
<http://www.kao.co.jp/laurier/karada/>